

平成 17 年 10 月 31 日

各位

会社名 株式会社コロワイド
代表者名 代表取締役社長 渡辺順寛
(コード番号 7616 東証第一部)
問合わせ先 専務取締役 野尻公平
(連絡先電話番号：045-312-5970)

「当期のM&Aの進展状況についてのお知らせ」及び「業績予想の修正に関するお知らせ」

当期のM&Aの進捗状況についてお知らせいたします。また、本件に密接な関係があります業績予想の修正についても、併せてお知らせいたします。

I 当期のM&Aの状況

当社グループでは、多業態展開とドミナント出店を店舗開発の基本戦略としております。すなわち、多業態展開によって、年齢・性別・職業などによって異なるお客様の様々な外食ニーズを、幅広く網羅することが可能となり、また同一地域に複数の業態を展開するドミナント出店によって、グループ内での競合を回避しながら売上高を増加させ、かつ物流の効率化によるコストの圧縮を図ることが可能となります。

このような基本戦略のもと、当社グループとしては、新業態を新規に開発する際の時間的コストを考慮した結果、一定の業務基盤を有する他社の業態を、M&Aによってグループ化することは、極めて有効な戦略オプションであると考えており、また実行してまいりました。M&Aで獲得した業態については、事業環境に応じて、積極的な新規出店・既存業態からの転換により、更に発展させることで、多業態展開によるメリットを最大限追求し、グループ全体の継続的な成長を達成しております。

当社では前期までにM&A（事業再編含）により7社を連結子会社化いたしましたでしたが、当期に入りましても上記戦略のもと継続してM&A戦略を推進しております。

当期における平成17年4月から10月までのM&Aの状況は、外食事業会社2社と、外食事業向けシステム開発事業会社1社の合計3社となっております。

3社の概要および当社が連結子会社化いたしました背景は、以下のとおりです。

①株式会社がんこ炎 ② 株式会社アトム

対象会社名	株式会社がんこ炎	株式会社アトム
主な事業内容	焼肉店「がんこ亭」、「がんこ炎」を中心とした外食チェーン	廻転寿司を中心に焼肉レストラン等の外食チェーン
主な営業拠点	中京地区を中心に 82 店舗 (うち FC 店舗 6店舗) (平成 17 年 6 月 28 日現在)	北陸・中京地区を中心に 242 店舗 (うち FC 店舗 49 店舗) (平成 17 年 9 月 30 日現在)
最近事業年度における業績の動向	平成 17 年 9 月期 売上高 5,864 百万円 経常利益 505 百万円	平成 17 年 3 月期 売上高 26,760 百万円 経常利益 △220 百万円
連結子会社化することによるシナジー効果	対象会社は、業態としても地域としても、当社とは補完性が強く、グループ化によるメリットを双方とも享受できる。 具体的には、 ① 北陸・中京地区での営業拠点の確立・拡充 ② 多業態戦略の強化 ③ セントラルキッチンの稼働率向上及びその他スケールメリットの享受 ④ 間接部門、人員の採用・教育・配置、店舗開発機能、メニュー開発機能の共同利用によるオペレーションの効率化	

③ ワールドピーコム株式会社

対象会社名	ワールドピーコム株式会社
主な事業の内容	セルフ・オーダー・トータル・システムの開発・販売、無線通信技術の開発・運用
これまでの当社との関係	当社グループでは、お客様の利便性向上の観点から、従来一部店舗において、ワールドピーコム株式会社の「メニウくん [®] 」(セルフオーダー用卓上端末機)を導入し、客単価の向上・オペレーションの効率化を推進
最近事業年度における業績の動向	平成 17 年 4 月期 売上高 744 百万円、経常利益 △139 百万円
連結子会社化することによるシナジー効果	当社では、引き続き同製品の導入を進めていく予定ですが、オーダリングシステムに留まらず、当社が行う商流・物流・マーケティング・バックオフィスの改善の仕組み作りに同社の技術を生かし、それを継続することによる業務の効率化の推進。 すなわち、当社グループのシステム統合や保守業務の内製化を進めるほか、同社との協働による高度なシステムの構築及び当該システム

	の運用により、以下の具体的効果の発現を期待しております。 ① 店舗オペレーションの効率化 ② マーケティング機能の充実 ③ セントラルキッチンの効率化 ④ 間接部門の効率化 ⑤ 人事評価制度の改善 ⑥ 店舗開発精度の向上
--	--

II. 業績予測の修正

平成 17 年 10 月に連結子会社化した株式会社アトム及びワールドピーコム株式会社の業績を含め業績予測の修正を行いました。

1. 通期連結の業績予想数値の修正（平成 17 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	81,364	3,900	1,344
今回修正予想（B）	92,767	4,081	801
増減額（B-A）	11,403	181	△543
増減率（％）	14.0	4.6	△40.4
（ご参考）平成 17 年 3 月実績	71,589	2,696	390

〔金額単位：百万円〕

修正理由

連結売上高は、下期より新たに連結子会社となった株式会社アトム及びワールドピーコム株式会社の売上加算されることで当初計画を大幅に上回る見込みであります。

連結経常利益は、原材料価格の抑制、人件費・販促費の堅実なコントロール等の改善があるものの、下期より新規連結となった 2 社が連結上まだ利益に十分貢献しないため、当初計画に比べ微増に留まる見込みであります。

連結当期純利益は、固定資産除却損に加え、連結調整勘定の減額修正を見込んでいるため、下期におきましても特別損失として 447 百万円の計上を予定しており、当初計画を下回る見込みであります。

2. 通期個別の業績予想数値の修正（平成 17 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	2,092	952	527
今回修正予想（B）	2,077	1,190	500
増減額（B-A）	△15	238	△27
増減率（％）	△0.7	25.0	△5.1
（ご参考）平成 17 年 3 月実績	28,638	1,602	251

〔金額単位：百万円〕

修正理由

管理コストの削減と連結子会社からの中間配当により経常利益の増加を見込んでおります。

（なお、個別業績につきましては、平成 16 年 10 月 1 日より持株会社体制への移行により、従来型の売上はなくなっております。）

3. 中間期連結の業績予想数値の修正（平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 9 月 30 日）

	売上高	経常利益	中間純利益
前回発表予想（A）	39,158	905	△242
今回修正予想（B）	39,451	910	△871
増減額（B-A）	293	5	△629
増減率（％）	0.7	0.6	—
（ご参考）平成 16 年 9 月中間実績	32,759	655	△244

〔金額単位：百万円〕

修正理由

連結売上高は、既存店売上が好調に推移したことにより当初計画どおりとなっております。

連結経常利益は、コロナ西日本及びコロナ北海道でメニュー換えに伴い原価率が上昇したことや、株式会社ががんこ炎での仕入の見直しが当初計画より遅れたこと等の要因はあったものの、人件費・販促費の堅実なコントロール等の改善が進み、当初計画は達成できる見込みであります。

連結中間純利益は、減損会計適用により店舗資産及び遊休不動産の減損損失を 1,164 百万円計上したことや、店舗の閉鎖及びリニューアルに伴う固定資産除却損等を 407 百万円計上したことに加え、保守的観点から一部子会社について減損損失等にかかる繰延税金資産を計上しないこととしたため、当初計画を下回る見込みであります。

4. 中間期個別の業績予想数値の修正（平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 9 月 30 日）

	売上高	経常利益	中間純利益
前回発表予想（A）	1,031	541	117
今回修正予想（B）	1,025	587	44
増減額（B-A）	△6	46	△73
増減率（％）	△0.6	8.5	△62.4
（ご参考）平成 16 年 9 月中間実績	27,580	991	△83

〔金額単位：百万円〕

修正理由

中間純利益は、子会社株式評価損等を 369 百万円計上したこと及び保守的観点から当該子会社にかかる繰延税金資産を計上しなかったため当初計画を下回る見込みであります。

（なお、個別業績につきましては、平成 16 年 10 月 1 日より持株会社体制への移行により、従来型の売上はなくなっております。）

以上